

○ 南船場地区

(1)「新町廓」と「南船場」

・南船場の西側(現・西区新町1・2丁目)付近には、江戸時代初めから「新町廓」が置かれ、船場の旦那衆の接待の場、遊興の場として賑わった。また、この新町から順慶町通りを東に向い、心齋橋筋を南下して道頓堀の芝居街・お茶屋へ繰り出す道筋には、夜店や多くの商店が立ち並び、古くからミナミへ向かうメインストリートであった。

「新町遊廓」(新町廓)

・新町遊廓は、大坂で唯一江戸幕府公認の遊廓(花街)で、江戸の吉原、京の島原と並び称された。

・”大坂夏の陣”の翌年(1616年)に、伏見町の木村又次郎が幕府に遊廓設置を願い出、寛永4年(1627)に新しく町割をして、市中に散在していた遊女屋を集約し、遊廓が設置された。新しく拓かれた地域を意味する「新町」が遊廓の名称となった。

・遊廓の町割りは、「五曲輪(クルワ)」と称され、「瓢箪町」を中心に北から「新京橋町」と「新堀町」、南へ「佐渡島町」と「吉原町」で構成され、後に揚屋町の「九軒町」と「佐渡屋町」が新堀町の西側に追加された。廓7町は、溝渠(コウキョ:水路)と板塀で囲まれ、瓢箪町の東西端に2つの大門(他に5つの非常門)が設けられていた。このうち東大門の前にはすぐ東側を流れる西横堀川に「新町橋」が架かっており、順慶町通りと結ばれていた。新町橋が架けられた寛文12年(1672)には、夕霧太夫を抱える置屋の「扇屋」が京・島原から瓢箪町へ移ってきて評判になった。

・元禄年間(1688～)には、800名を超える遊女(太夫など)がいたことが確認されており、明治時代初頭まで繁栄した。

・明治2年(1869)には新しく「松島遊廓」が出来、同23年9月には大火があったことから徐々に縮小されていき、問屋等の商業地に転向していったが、大正11年には佐渡島町(現・新町南公園の北向い)に「新町演舞場」が建設され、春の浪花踊りが催されていた。このレンガ造りの建物は、その後出版販売の「大阪屋・本社」ビルの一部として使われていたが、平成26年に解体され新しいビルになった。

・昭和20年の大阪大空襲によって焼け野原となり、今はその面影もないが、もと九軒町の一画が「新町北公園」となっており、公園の北西角に「新町九軒桜堤の跡」碑が建っている。九軒町の有名な置屋「吉田屋」付近から西へ現・なにわ筋西側まで桜堤の石垣が続いていた跡で、昭和初期まで夜桜見物で賑わっていた。

「オリックス劇場」

新町1丁目14

・現在、この公園の北側に「オリックス劇場」があり、西隣には平成27年1月竣工の53階建て超高層タワーマンション(高さ約190m)「大阪ひびきの街 ザ・サンクタスタワー」(874戸)が建てられている。

「オリックス劇場」は、平成24年4月に旧「大阪厚生年金会館」大ホールを改築してオープンした客席数2400席の劇場で、クラシックからポップス・演劇まで幅広いジャンルの公演に利用されている。(4月の上方漫才大賞の会場にもなっている。)

「大阪厚生年金会館」

・もとあった「大阪厚生年金会館」は、厚生年金保険加入者の福祉増進を目的にして、社会保険庁が昭和43年4月に設置した厚生年金福祉施設(地上7階・地下1階建て)である。2400席収容の「大ホール」のほか、ミュージカル、演芸などがに利用された1100席収容の「中ホール」や宿泊施設、結婚式場・レストラン、カルチャースクールが併設されていた。

・平成17年に全国の厚生年金会館が民間へ売却することが決定され、大阪では存続要請運動もあって暫く遅れたが、平成21年に入札によってオリックス不動産が落札し、「大ホール」部分が改築されて新しい劇場となり、西側の「中ホール」や宿泊施設跡には上記の超高層タワーマンション(上記)が新築された。

(2)現在の「南船場」

・現在の「南船場」は、本町から南、もと長堀川までの地域を指し、北から「久太郎町1～4丁目」、「北久宝寺町1～4丁目」、「久宝寺町1～4丁目」、「南久宝寺町1～4丁目」、「博労町1・3丁目」および「南船場1～4丁目」からなっているが、ここではほぼ順慶町通りより南にあたる「南船場1～4丁目」を中心にみてみたい。

①1丁目＝東横堀川から堺筋まで、2丁目＝三休橋筋まで、3丁目＝御堂筋まで、4丁目＝西横堀川までに区分けされている。

「順慶町」

・高速道路の高架下に置かれた大阪顕彰史跡『順慶町の夜市』には「博労町通の一筋南が順慶町通で、その名は大和郡山の城主・筒井順慶が秀吉からこの地を拝領したことに因むとされる。江戸時代には、東は堺筋、西は新町橋までの間は夜店が連なり、これを見ようと往来は大勢の人で賑わった。」と記されている。

②「博労町」の名は、江戸時代に牛馬の売買を生業としていたことに由来する。

(3)「北心齋橋筋商店街」

・心齋橋北詰から北へ順慶町通りに至る古くからの商店街で、延享5年(1748)刊『難波丸綱目』には、「ぬり物屋、書物屋、古道具や、経師や、琴三味線、かざりや、其外諸商売多し」と記され、特に明治時代以降は書店街、時計店街として有名であった。

明治31年発効の『大阪繁昌誌』上巻には、「心齋橋以北、北浜に至る間も商業頗る盛大なる地にして人車の往来ひきもきらず。街頭に雲つくばかり高く聳ゆる建物を石原・渋谷・北出の三大時計店とす。何れも楼上に大時計を置いて時間を報ず。その他、橋本器械店・安田時計店・中村書籍店・上中洋傘店・古梅園・青木嵩山(スザン)堂・吉岡書林等有名なる商店なり。」とあり、駿々堂(平成12年倒産)もここにあった。

「ジェビリー 心齋橋店」 南船場3丁目11

・平成7年開店、ロレックス、オメガ等世界のブランドウォッチ販売・買取専門店。

「クオーク 心齋橋店」 南船場3丁目12

・クオークは1998年創業のロレックス専門世界チェーン店で、日本には13店舗。
心齋橋店は平成16年にクオーク初の ROLEX中古・アンティーク専門店として開店。

(4)南船場の主な施設・店舗

「東急ハンズ心齋橋店」 南船場3丁目4(長堀通り沿い)

・平成11年3月、ビルの地上8階・地下1階に、関西最大規模を誇る生活雑貨店の大阪市内第1号店としてオープン。「吉田かばん」や「京セラ セラミックナイフ」など高品質な日本製品を取り揃え、海外からの旅行者の需要にも対応している。

・令和2年9月に心齋橋地区への移転が決まっているが、移転先は不明。

旧「富士火災本社ビル」(現「SR長堀ビル」) 南船場1丁目18

・平成元年2月、富士火災海上保険が、創業70周年を記念し本社ビルとして建設した地上16階・地下3階建てビルで、外装には花崗岩が使用されている。

・富士火災海上保険は、大正7年(1918)に大阪で「日本簡易火災保険株式会社」として設立(昭和24年に社名変更)された自賠責保険と自動車保険を主に取り扱う中堅損害保険会社であったが、平成30年1月に「AIU損害保険株式会社」と合併して、「AIG損害保険株式会社」(本店＝東京)となり、オフィスは「グランフロント大阪タワーB」に移転した。

現在は、「SR長堀ビル」と名称変更され、貸オフィスビルになっている。

「住江織物」本社 南船場3丁目11

・「スミノエ」の商標で知られるインテリア業界有数の大手メーカーで、主にカーペット、床材、カーテン、壁装材などを扱う内装材会社。

・明治16年(1883)、米穀商であった村田伝七がサイドビジネスとして東成郡住吉村で手織り緞通の家内工場を創業。帝国議会議事堂のカーペットや国会議事堂の内装織物も受注し、日本初の国産シート地が国鉄で採用される等、その技術が認められている。

- ・明治36年、本格的な製織設備をもった住吉工場を建設する。
- ・大正2年(1913)12月に「住江織物合資会社」を設立し、昭和5年(1930)12月、「住江織物株式会社」となった。
- ・その後、自動車・鉄道車両のシート地やカーペットの生産で社業を伸ばす。
- ・現本社ビルは、昭和44年1月竣工の地上7階・地下1階建てで、1階にはイタリア・ミラノのファッションブランド「ジョルジオアルマーニ」の直営店が入っている。

「オーガニックビル」(「小倉屋山本」本社ビル)

南船場4丁目7

- ・平成5年3月に竣工した地上9階・地下1階建ての老舗昆布店「小倉屋山本」の本社ビル。

外壁に132個のエンジ色の植木鉢が配され、観葉植物が植栽された特色ある建物で、水やりはコンピューター制御で行われている。

・「小倉屋山本」は、嘉永元年(1848)10月、初代・山本利助が奉公していた「をぐら昆布」(松原久七)から暖簾分けされ、順慶町にて「新町橋小倉屋」として独立・創業した、

・空襲で全焼した店を復興する際に、屋号を「小倉屋山本」と改名し、昭和24年に発売開始した塩ふき昆布「えびすめ」が大阪名物としてその名を知られるようになった。

・3代目・山本利助の実妹で作家の「山崎豊子」が、処女作『暖簾』で生家をモデルとしたことで、その知名度が上がった。

・昭和46年5月に本社・新社屋(小倉屋山本ビル)が新築され、平成5年に上記ビルに建替えられた。



「小倉屋山本・本店」

南船場4丁目10

・創業の地にある直営店で、戦災で焼失したが、昭和30年3月に復興し、昭和61年11月に竣工した現在の8階建て本店ビルに店舗を置いた。明治期に宮内省御用達・宮内庁御用達となり、昭和4年には天皇陛下天覧御買上の栄に浴している。

「心齋橋東急ビル」

南船場4丁目4(新橋交差点・北西角)

・昭和57年9月竣工の地上11階・地下1階建てオフィスビルで、特徴あるアーチ状の窓と正面最上部の丸型時計が目を引く。

1階にはフランスのジュエリーブランド「ブシュロン(BOUCHERON)」の直営路面店があり、かつては、イタリアのラグジュアリーファッションブランド「マックスマラー(Max Mara)」(平成10年オープン)の直営店があった。

「大阪観光局」

南船場4丁目4(TODA BUILDING 心齋橋・5階)

・平成25年9月、「大阪都市魅力創造戦略」に基づき、府市の観光振興を一元化し、民間感覚を生かして官民一体で「ヒト、モノ、金を大阪に呼び込む」施策の推進役として、設立されたもので、昭和62年1月竣工の「りそな船場ビル」(現・「TODA BUILDING 心齋橋」)の5階に事務所を置いている。

*なお、同ビル6階には、阪神・淡路大震災後の平成7年5月から、「在大阪インドネシア共和国総領事館」が開設(神戸市内から移転)されていたが、平成28年4月に、中之島の「中之島インテスビル」22階に移転された。

「大阪農林会館」

南船場3丁目2

・昭和5年(1930)、「三菱商事大阪支店」として建築された地上5階・地下1階建てのアンティークビル(レトロ建築)。昭和24年、農林省の事務所となり、昭和47年に現在の「大阪農林会館」として貸ビルになっている。

「原田産業(株)大阪本社ビル」

南船場2丁目10

・昭和3年(1928)3月竣工のコンクリート造り2階建て洋館。重厚なファサードとバルコニーが目を引く。

同社は大正12年(1923)3月創業の貿易商社。



原田産業・大阪本社ビル

- 「W(ダブルユー) OSAKAホテル」建設計画 南船場4丁目2(南船場北3交差点)
 ・2021年2月開業予定で建設中の超高層タワーホテル。
 地上31階・地下1階建て(高さ約117m)で、客室数は337室のマリオット系高級ホテル。
- 「大阪市立南幼稚園」 南船場3丁目2
 ・芦池幼稚園と大宝幼稚園が統合され、もと芦池幼稚園の園地に昭和62年4月開設された大阪市立の幼稚園。(3~5歳児)
 芦池・大宝・道仁小学校が統合されて南小学校が開校されたことに伴い、芦池と大宝小学校に併設されていた2つ幼稚園が統合されたもの。
 園舎の通り西側にあったもと芦池小学校跡地が、現在、園のグラウンドになっている。
- 「大阪ECO動物海洋専門学校」 西区新町1丁目32
 ・平成26年に設立された2年制・3年制の専門学校で、動物園・水族館の飼育員や訓練員、ペットサロンのスタッフなどの養成を目的としており、実習設備も備える。
- 「クラッシィタワー南船場」 南船場1丁目(旧:「内外衣料製品」本社ビル)
 平成27年6月竣工の地上30階・地下1階建て超高層タワーマンション(146戸)。
- 「プレミスト南船場」(南船場1丁目)…平成24年9月竣工。23階建て(139戸)
- 「サンクタスタワー心斎橋ミラノ・グランデ」 西区新町1丁目77
 平成18年4月竣工の33階建て(105m)超高層タワーマンション(148戸)
- 「ライオンズマンション大阪スカイタワー」 西区新町1丁目21
 平成16年7月竣工の地上35階・地下1階建て(123m)超高層タワーマンション(233戸)

(5)「難波神社」 博労町4丁目1

- ・5世紀前半、反正天皇が父・仁徳天皇を祭神として松原市に創建したのが始まりとされ、秀吉が大坂城築城を始めた天正年間(1573~)に現在地に遷座された。「上難波神社」とも称される。
- ・戦災で全焼したが、昭和49年7月に再建された
- ・本殿西側の摂社「稲荷宮」(博労稲荷神社)は、商売繁盛の神様として船場の多くの商人から篤い信仰を受けている。
- ・境内に「稲荷社文楽座跡」碑があり、文化8年(1811)に2世・上村文楽軒がこの場所に人形浄瑠璃の「稲荷社文楽座」を開いて、明治4年(1871)に西区松島に移るまでこの地にあったという。

